

はじめに

1 まずはかゆみを知ろう!
目次へ戻る2 かゆみを採点しよう!
目次へ戻る3 かゆみをやっつけよう!
目次へ戻る

このページを印刷する (PDF:148KB)

③ かゆみをやっつけよう

(1) 強いかゆみがある時の外用療法 (ステロイド外用薬やプロトピック軟膏を中心にしましょう)

1. 皮膚炎を抑える必要性

強いかゆみは、基本的には皮膚炎があるために起こります。一見、赤みがなくてカサカサしているだけのように見えても、その皮膚にはアトピー症状を引き起こす免疫細胞がたくさん集まっています。つまり、見た目には皮膚炎がないように見えても、「かゆみ」があるところは、実は細胞レベルでは炎症があるわけです。

ですから、かゆみをコントロールするためには炎症を抑えることが最も大切です。炎症の治療が十分でないと、かゆみはなかなかおさまりません。治療として、ステロイド(副腎皮質ホルモン)外用薬や免疫抑制薬(プロトピック軟膏)などの炎症を抑える塗り薬を適切に塗る必要があります。

首は、アトピー性皮膚炎の症状がやすいところです。こすれたり、引っ掻いたりすると、炎症の後の色素沈着によって黒ずんでしまいます。この「しみ」はとても目立ってしまいます。炎症を早くしずめることが、最もよい治療です。プロトピック軟膏やステロイド軟膏を、主治医と相談して上手に使用しましょう。



[<< 目次へ](#) [次のページへ >>](#)